

# 第39回 関東臨床細胞学会 学術集会

in SHIZUOKA

プログラム・抄録集

【テーマ】希少がんの細胞診

会期

2025年9月20日(土)

会場

静岡県コンベンション  
アーツセンター **グランシップ**

〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡2丁目3-1



会長: 庵原 明倫 庵原町中歯科医院

運営事務局 **静岡県臨床細胞学会**

〒420-8527 静岡県静岡市葵区北安東4丁目27番1号 静岡県立総合病院病理学部  
詳しくはホームページをご覧ください。 <https://plaza.umin.ac.jp/~jsck39/>



第39回  
関東臨床細胞学会学術集会  
テーマ 希少がんの細胞診

プログラム・抄録集

会期：2025年9月20日(土)

会場：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

会長：庵原 明倫（庵原町中歯科医院院長）

## ご挨拶

例年より早く梅雨明けしすでに猛暑となっておりますが、関東臨床細胞学会の皆様にはますます御健勝のことと存じます。

この度第39回関東臨床細胞学会学術集会を、令和7年9月20日(土)静岡県静岡市のグランシップにて開催させていただくことになりました。

開催方法は、関東臨床細胞学会に所属する地区の皆さまのご意見、ご要望もありましたので、現地開催と一部講演のオンデマンド配信を併用する形で開催致します。

今回の学会テーマは、「希少がんの細胞診」といたしました。学会等でもなかなか取り上げられることが少ない所謂「希少がん」ではありますが、細胞診の重要性は変わることはありません。その「希少がん」に敢えてスポットあてることで、再認識するよい機会となるのではないかとこのテーマに致しました。

プログラムについては口腔細胞診のシンポジウムに加え、これも関東臨床細胞学会の皆さまからのご要望で、各地域参加型のスライドカンファレンスを取り入れました。特別講演としまして日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院病理部の伊藤雅文先生より Giemsa 染色について、がん研究会有明病院病理部の山下享子先生より軟部腫瘍の細胞診についてお話いただく予定になっております。

静岡県はご承知の通り、世界遺産でもあり日本の象徴でもある富士山を擁しています。ポスターにあります富士山と茶畑はまさに静岡県の象徴です。海の幸、山の幸も豊富で伊豆半島や浜名湖など観光名所も多数あります。是非、9月の学術集会には静岡県にお越しいただきたく、静岡県臨床細胞学会一同お待ち申し上げます。

第39回関東臨床細胞学会学術集会会長  
庵原 明倫（庵原町中歯科医院）

# 会場へのアクセス

- 会場

静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

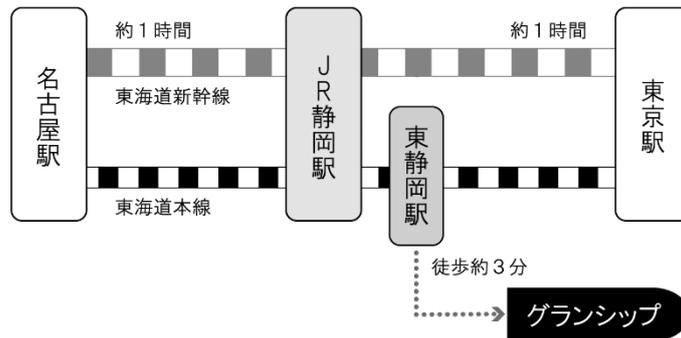
〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡 2 丁目 3-1

- アクセス方法

鉄道でのアクセス

JR 東海道本線「東静岡」駅下車、「南口」から徒歩 5 分

(静岡駅から、東海道本線上り方面に乗り換え(1 時間に 4~6 本運行)、東静岡まで一駅 3 分)



車でのアクセス

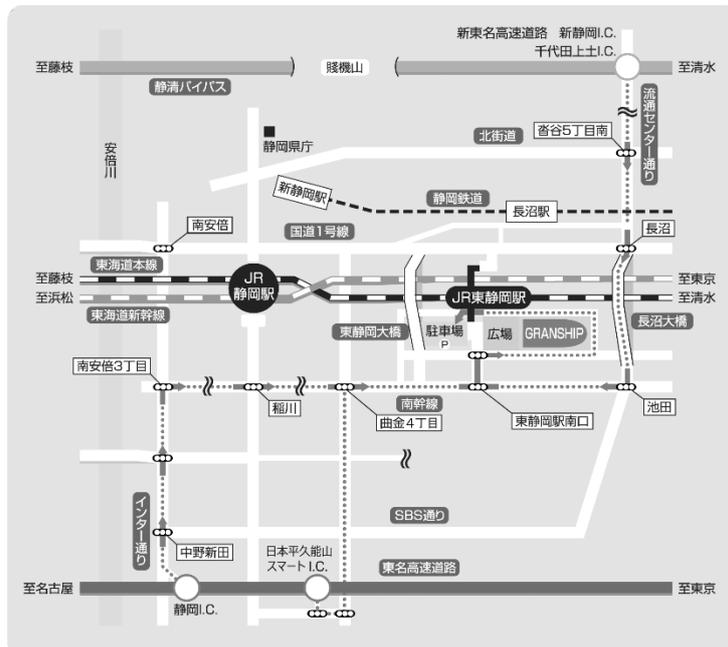
※ 会場には有料駐車場がございますが、工事中のため駐車可能台数が制限されていますので、公共交通機関のご利用をお勧めします

東名高速道路

- 東京方面より「日本平久能山スマート IC」から 4km10 分
- 名古屋方面より「静岡 IC」から 6km20 分

新東名高速道路

- 「新静岡 IC」から 9km15 分

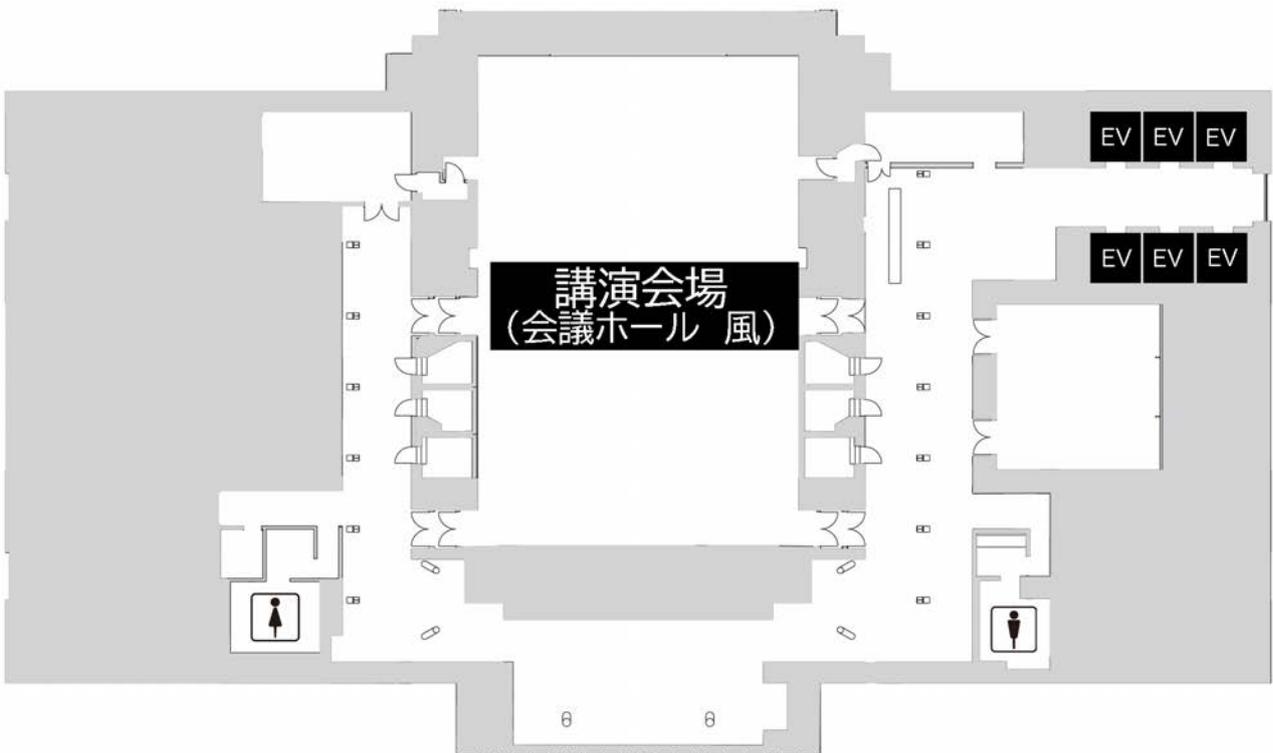


# 会場案内

- 10階(受付、展示会場)



- 11階(講演会場)



## 日程表

	11 階 会議ホール・風	10 階 1001-1	10 階 1001-2
9:30			
10:00			
10:30	10:25~10:30 開会式		
11:00	10:30~12:00 シンポジウム 口腔細胞診？まさかの基本編！～口腔の角化異常病変を中心に～ 基調講演:角化異常のいろ・は ー腫瘍、炎症、再生性ー 落合 隆永(朝日大学歯学部口腔病態医療学講座口腔病理学分野) 演題1:NILM にする勇氣 金田 悦子(日本大学松戸歯学部病理学講座)		
11:30	演題2:悩める OLSIL ～角化細胞 着目するポイント～ 金田 敦代(大阪けいさつ病院病理技術科)		
12:00	12:00~12:50 ランチョンセミナー 子宮頸がんスクリーニングにおける CINtec® PLUS の役割: 25 年の研究と実践から 藤井 多久磨(公益財団法人東京都予防医学協会検査研究センター) (共催:ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社)		12:10~13:00 役員会
12:30			
13:00	13:00~14:00 特別講演1 細胞診断染色技術論:ギムザ染色を中心に 伊藤 雅文 (ITO.MD 病理研究所合同会社)	企業展示	
13:30			
14:00	14:10~15:10 特別講演2 骨軟部腫瘍 ーその疾患概念や細胞診の利点・利用法についてー 山下 享子 (がん研究会有明病院 病理部)		
14:30			
15:00	15:10~15:40 特別イベント (共催:三立製菓株式会社)		
15:30			
16:00	15:45~17:15 スライドカンファレンス 症例1 甲状腺 症例2 胸水 症例3 胆汁 症例4 皮下腫瘍 症例5 後腹膜腫瘍		
16:30			
17:00			
17:30	17:15~17:20 閉会式		

# 参加者へのご案内

## 1. 開催形式

- ・ 現地開催および事後オンデマンド
- ・ オンデマンド配信期間(予定):2025年10月1日(水)~31日(金)
- ・ ライブ配信はありません

## 2. 当日参加受付

※ 事前に参加登録をした(参加費を支払った)方も必ず参加受付を行ってください

場所: グランシップ10階 1001-1 会議室

受付時間: 9月20日(土) 9時30分~17時30分(開場9時)

1. 事前登録された方: QRコードにて参加確認を行いますので、お手数ですが参加登録完了メールからネームカード(QRコード付き)を印刷してお持ちください
2. 現地当日登録ご希望の方: 会員カード等、日本臨床細胞学会会員番号(8桁)の分かるものをお持ちください。現地当日登録受付にて、参加申込書をご記入の上、参加費¥6,000を現金にてお支払いください

## 3. 会場

- ・ 参加受付、企業展示: 10階 1001-1 会議室+展望ロビー
- ・ 各種講演: 11階 会議ホール
- ・ ランチョンセミナー: 11階 会議ホール (12時~12時50分)
- ・ 役員会: 10階 1001-2 会議室 (12時10分~13時)

## 4. 参加費

登録区分	申込期間	金額	支払い方法、備考
事前登録	7月1日~9月12日	¥5,000	クレジットカード
現地当日	9月20日	¥6,000	現金
事後オンデマンド	9月21日~10月31日	¥6,000	クレジットカード
学生・院生・研修医・ 歯科研修医	7月1日~9月12日	¥1,000	※要身分証明書・学生証提示 ※単位対象外

※いずれも不課税

## 5. 学術集会の参加単位

○日本臨床細胞学会 細胞診専門医 2 単位(学会参加)

○日本臨床細胞学会 細胞検査士 JSCC15 単位、IAC7 単位(学会参加)

・単位取得は、現地参加(ネームカード QR コードにて受付または当日登録)、あるいはオンデマンド視聴が必要です。オンデマンド視聴の有無は、事務局がログイン記録を確認しますので、必ずご自身の ID/パスワードでログインしてご視聴ください。参加登録をただけでは単位付与されませんので、ご承知置き下さい。

○日本産科婦人科学会 機構認定 2 単位(学術集会参加)

・現地参加のみ対象、オンデマンド視聴は単位対象外です。単位登録に際し、JSOG カードまたは JSOG アプリが必要となりますので、必ずご持参ください。

○日本産婦人科医会 研修参加証

・現地参加のみ対象、オンデマンド視聴は単位対象外です。単位登録に際し、会員ポータルの会員証 QR コードが必要となりますので、必ずご準備ください。

## 6. クローク

10 階 1004 会議室前

9 時 30 分～17 時 30 分

## 7. ランチオンセミナー

11 階 会議ホール

12 時～12 時 50 分

## 8. 代表役員会・合同役員会

10 階 1001-2 会議室

12 時10分～13 時

## 9. 駐車場

会場には有料駐車場がございますが、工事中のため駐車可能台数が制限されていますので、公共交通機関のご利用をお勧めします。

## 10. オンデマンド配信

配信期間(予定):2025 年 10 月 1 日(水)～31 日(金)

# プログラム

開会式 10:25~10:30

---

シンポジウム 10:30~12:00

---

座長:久山 佳代(日本大学松戸歯学部病理学講座)

伊藤 由美(日本鋼管病院 病理診断科 口腔病理診断センター)

口腔細胞診?まさかの基本編! ~口腔の角化異常病変を中心に~

基調講演

角化異常のいろ・ろ・は -腫瘍、炎症、再生性-

落合 隆永(朝日大学歯学部 口腔病態医療学講座 口腔病理学分野)

演題1

NILM にする勇気

金田 悦子(日本大学松戸歯学部 病理学講座)

演題2

悩める OLSIL ~角化細胞 着目するポイント~

金田 敦代(大阪けいさつ病院 病理技術科)

ランチョンセミナー 12:00~12:50

---

座長:武隈 宗孝(静岡県立静岡がんセンター 婦人科)

子宮頸がんスクリーニングにおける CINtec<sup>®</sup> PLUS の役割:25年の研究と実践から

藤井 多久磨(公益財団法人東京都予防医学協会 検査研究センター)

共催:ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

特別講演1 13:00~14:00

---

座長:大石 直輝(山梨大学医学部 人体病理学講座)

細胞診断染色技術論:ギムザ染色を中心に

伊藤 雅文(ITO.MD 病理研究所合同会社)

特別講演2 14:10~15:10

---

座長:加藤 生真(静岡県立静岡がんセンター 病理診断科)

骨軟部腫瘍 –その疾患概念や細胞診の利点・利用法について–

山下 享子 (がん研究会有明病院 病理部)

特別イベント 15:10~15:40

---

共催:三立製菓株式会社

スライドカンファレンス 15:45~17:15

---

座長:酒井 康弘(浜松医科大学 腫瘍病理学講座)

岩崎 朋弘(静岡県立こども病院 診療支援部検査技術室)

症例1 甲状腺

出題者:千葉 知宏 (がん研究会有明病院 細胞診断部)

回答者:成清 羊佳 (国立がん研究センター東病院 臨床検査部 病理検査室)

症例2 胸水

出題者:藤原 拓磨 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 病理診断科)

回答者:中村 海斗 (山梨県立中央病院 検査部 病理診断科)

症例3 胆汁

出題者:樋口 由美子 (SUBARU 健康保険組合 太田記念病院 臨床検査部)

回答者:谷 優佑 (新潟大学医学部 臨床病理学分野)

症例4 皮下腫瘤

出題者:菅野 恵士 (埼玉医科大学国際医療センター 病理診断部)

回答者:三澤 健 (昭和伊南総合病院 臨床検査科)

症例5 後腹膜腫瘤

出題者:大塚 光一 (東京医科大学茨城医療センター 病理診断部)

回答者:中村 香織 (自治医科大学附属病院 病理診断部)

閉会式 17:15~17:20

---

# 抄録集

シンポジウム 基調講演

---

## 角化異常のいろいろは -腫瘍、炎症、再生性-

落合 隆永

朝日大学歯学部 口腔病態医療学講座 口腔病理学分野

【はじめに】口腔粘膜疾患は病態に特徴的な疾患だけでなく色調変化を伴う病変が存在することで多彩な臨床像を呈する。また、口腔粘膜疾患は角化異常を呈する疾患も多数あり、一部は口腔扁平上皮癌へと進展する可能性のある病変が含まれる。

【口腔粘膜疾患】口腔粘膜疾患は真菌やウイルスなどの感染症や尋常性天疱瘡などの自己免疫性疾患および褥瘡性潰瘍やアフタ性口内炎などの潰瘍性疾患がある。さらに、赤色病変、白色病変、黒色病変および黄色病変と様々な色調変化を呈する病変が存在する。白色病変の口腔扁平苔癬、偽膜性カンジダ症および白板症や赤色病変の紅板症、萎縮性カンジダ症などは経験する機会も多い。さらに、舌や口唇に限局する特異的な疾患が存在する。舌粘膜では地図状舌、溝状舌、正中菱形舌炎および萎縮性舌炎などがあり上皮の肥厚性病変から萎縮性病変まで多彩な病態を示す。

【口腔上皮性異形成と扁平上皮癌】口腔上皮性異形成は基底細胞から表層まで異型細胞が置換する全層置換型だけでなく、表層の角化細胞への分化が保たれる表層分化型が存在する。表層分化型からは異型細胞による上皮組織の全層置換がなく浸潤性増殖を示す扁平上皮癌の発生が知られる。また、口腔扁平上皮癌の外向型や表在型では角化層の肥厚を呈する病態を形成することも多い。

【口腔粘膜の病変と角化異常】角化亢進を示す口腔粘膜疾患は炎症、感染症、白色を呈する口腔粘膜疾患、口腔上皮性異形成および外向型や表在型の扁平上皮癌があり、腫瘍性疾患を含むことから細胞診による判定が求められる。これらの病変から擦過される細胞は角化亢進性病変を反映する表層角化細胞が主体である。各疾患の細胞像は正常から異常を示す細胞が種々の程度で出現するが、染色性や形態的な異常所見が類似することから評価をより難しいものとしている。

本シンポジウムでは口腔粘膜疾患の基礎的内容と角化異常病変の細胞像について検討したい。

## NILMにする勇氣

金田 悦子

日本大学松戸歯学部 病理学講座

口腔擦過細胞診は近年の口腔がん罹患数の増加に伴い、いまだ検体数が増加している。

口腔粘膜は常に外的刺激や加齢的变化による免疫低下により、多様な疾患が発生しやすい部位である。

細胞診断にて NILM と判定される口腔内病変には、炎症性疾患として物理的・化学的刺激による潰瘍や、感染症(主に Candida 感染症, ヘルペスウイルス感染症), 口腔潜在的悪性疾患の白板症(病理組織学には過角化症), 口腔扁平苔癬(OLP), その他自己免疫疾患である尋常性天疱瘡や、腫瘍性病変の疣贅性黄色腫などがある。これらの疾患に出現する角化型表層扁平上皮細胞は、炎症性修飾がしばしば観察される一方、上皮腫瘍性疾患においては、細胞異型が弱く口腔上皮性異形成に出現する角化型表層異型扁平上皮細胞との鑑別困難な症例は少なくない。

今回我々は口腔細胞診で細胞判定に難渋する白色病変, 白赤混在性病変で随伴する上皮の過角化について着目し、角化型表層扁平上皮細胞を中心に口腔上皮性異形成との比較検討を行い症例提示をする。

症例として、炎症性変化(義歯などによる外的刺激, カンジダ症, ヘルペスウイルス感染症, 尋常性天疱瘡), 口腔潜在的悪性疾患(白板症, 口腔扁平苔癬), 腫瘍類似性疾患(疣贅性黄色腫)について臨床病理学的, 細胞学および病理組織学的に比較検討し報告する。

これらの疾患に出現する角化型表層扁平上皮細胞をオーバーに判定しないためには口腔粘膜疾患の理解と臨床情報を併せて判定すること, 細胞判定では正常細胞との比較や, スクリーニング時, 細胞質の輝度や核所見(特にクロマチンパターン)に注視して鏡検し, 時に反応性異型と異型細胞との鑑別が必要な症例では対応として1~2週間、消炎・除菌・刺激の除去, 経過観察後の再検査を行うことが口腔細胞診断の正診率がより向上すると考えられる。

## 悩める OLSIL ～角化細胞 着目するポイント～

金田 敦代

大阪けいさつ病院 病理技術科

近年、LBC の普及により、侵襲性の低い口腔擦過細胞診は歯科クリニックや市中病院において積極的に実施されている。

細胞診で口腔がんを早期に発見するために設けられた新報告様式が普及しつつあるが、子宮腔部・頸部細胞診の判定と混同してしまう事や、施設により検体数に差があるため苦手とする細胞検査士が多い。

検鏡時は、まず初めに深層型異型細胞の有無を確認する必要があるが、少数～見られない症例が多いため、角化異型細胞の判断が重要となる。NILM と OLSIL の鑑別は腫瘍性か否かの判断に重要であるが、口腔内は常に刺激や炎症に晒されており、鑑別困難な症例がある。当院の 2023 年 1 月～2025 年 6 月までに施行された口腔擦過細胞診は 739 件で、組織診と対比できた 270 件を対象とした結果、OHSIL 及び SCC 症例は全例悪性、OLSIL 症例は良性から悪性まで混在しており、OLSIL 判定の難しさを痛感する。扁平苔癬、疣贅性黄色腫、水疱やびらんの病変に反応性の表層角化扁平上皮細胞が多く出現していた。

OLSIL は低異型度上皮内腫瘍性病変であるが、その組織診では高異型度上皮性異形成以上の病変も含まれるのが実情である。口腔では、表層への分化が保たれ、深層で異型が強い場合でも表層では異型の弱い上皮内癌や扁平上皮癌が多く、主に表層の細胞異型を判断する細胞診では SCC の判定は極めて困難なため、under diagnosis となる症例への理解が必要である。しかし、当院 OLSIL 症例の 90.8% は腫瘍性病変であり、口腔擦過細胞診はスクリーニングとしての役割を十分果たしていると考ええる。

OLSIL の判定には角化異型細胞の熟知が必要で、細胞質の輝度・形、核クロマチン、核形不整、細胞の多様性などに着目し、限られた細胞では判断せず、標本全体をみて臨床情報(肉眼像)と総合的に判断することが重要である。

当日は、OLSIL として拾い上げるべき細胞所見を提示し、当院での OLSIL 症例をその後の臨床的対応とともに振り返る。

## 細胞診断染色技術論:ギムザ染色を中心に

伊藤 雅文

ITO.MD 病理研究所合同会社

顕微鏡の開発、固定技術、薄切、ガラス塗抹細胞、染色法など形態学的手法のほとんどすべては 19 世紀から 20 世紀初頭にはほぼ今日と同程度の内容が確立した。その後、組織は HE 染色、細胞診はパパニコロウ染色 (Pap 染色) が標準。それは確かだが、骨髄を専門に見ていると HE 標本はほとんど見ずにギムザ染色に手を伸ばす。糸球体病変の専門家は PAS 染色、肝臓病理は鍍銀染色と、それぞれ使いやすい染色があり標準染色にとらわれない。そのほうが実際的だからである。Pap 染色は異なる分子量の酸性色素 (オレンジ G, エオシン Y, ライトグリーン SF) を組み合わせ、細胞質内の取り込み程度により角化の過程をとらえ、核形態と合わせ正常と異常細胞の違いを明瞭化した画期的染色法である。Pap 染色により婦人科細胞診断のジャンルは確立し、頸管癌の早期診断に多大な貢献をした。同時期にギムザ染色はハンブルグ熱帯病研究所でマラリア原虫の同定を目的として開発された。塩基性色素であるメチレンブルーと酸性色素のエオシン Y を基本とし、好酸性、好塩基性の評価はギムザ染色のこの色素組成に由来する。血中のマラリアを探す過程で酸性顆粒、好塩基性顆粒の識別が可能なこと血液細胞の鑑別に有用であり、ギムザ染色なしには血液学の発展はなかったと言える。

パップスメアと呼ばれる婦人科検診から、細胞診断が穿刺細胞、体腔液細胞診など、採取されるほぼすべての細胞を対象とする時代になった。角化細胞の同定を目的として考え出された Pap 染色で非扁平上皮細胞の評価には限界がある。Pap 染色、ギムザ染色の特性を見直し、それぞれの細胞診断における有用性について考える。また、新たな手法としての細胞レベルでの遺伝子解析についてその将来像を考える。

## 骨軟部腫瘍 — その疾患概念や細胞診の利点・利用法について —

山下 享子

がん研究会有明病院 病理部

骨軟部腫瘍の細胞診は一般的に馴染みの薄い領域と思われるが、当院では、整形外科から腫瘍関連の細胞診が年間約 900 件提出され、長年診療に役立てられてきた。骨軟部腫瘍の病理診断では、必要な免疫染色や分子病理学的検査が増加して、診断精度が上昇した反面診断確定までの時間が長くなる傾向があり、細胞診は、最も迅速に結果の出せる診断ツールとして依然重要な役割を果たしている。

骨軟部腫瘍の検索を目的とした細胞診の標本作成法について、日本では主に圧挫細胞診が行われている。圧挫には、捺印や穿刺吸引(FNA)と比べて標本に含まれる細胞数が多い、組織構築が保たれるといった長所があり、核形態以外の情報量が多い。病理医にとっては、2次元の断面像から推測していた組織構築が、立体的なかたちで視覚的に確認できることも興味深い。また針生検と同時に、同じ 14G コアニードルで採取された検体の圧挫細胞診は、4 $\mu$ m の 1~数スライス分しか観察できない針生検とは違い、採取された組織全体を含むため本質的に情報量がより多く、しばしば病理診断の参考になりうる。このメリットが十分生かせるのは、厚みのある標本でも光透過性の高い脂肪性腫瘍や粘液性腫瘍である。特に異型脂肪腫様腫瘍/高分化型脂肪肉腫と脂肪腫との形態による鑑別では、針生検よりも信頼性が高く、実用的な検査法となっている。

本講演では、骨軟部腫瘍の診断における細胞診の現状やその利用法について紹介し、頻度の高い脂肪性腫瘍を中心に、遺伝子異常を含む疾患概念や実際の細胞診の見方について解説する。本講演が一人でも多くの医師・細胞検査士に、骨軟部腫瘍の細胞診に興味を持って取り組んで頂く機会になればと考えている。

### 症例 1

出題者:千葉 知宏 がん研究会有明病院 細胞診断部

回答者:成清 羊佳 国立がん研究センター東病院 臨床検査部 病理検査室

#### 【症例概要】

年齢:70 歳代

性別:女性

採取材料・部位・器具・処理法等:甲状腺右葉腫瘤・穿刺吸引細胞診・通常塗沫・Papanicolaou 染色

臨床情報:右頸部腫瘤を自覚して近医受診。腎癌(50 歳代)及び卵巣癌(50 歳代)の既往あり

### 症例 2

出題者:藤原 拓磨 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 病理診断科

回答者:中村 海斗 山梨県立中央病院 検査部 病理診断科

#### 【症例概要】

年齢:80 歳代

性別:男性

採取材料・部位・器具・処理法等:胸水・左胸腔・遠心後、ストリッヒ法にて作製

臨床情報:体調不良を主訴に近医を受診。急激な体重増加、頻脈、乏尿がみられ、精査の結果、心不全増悪が疑われ当院に緊急搬送された。著明な体腔液貯留を認め、細胞診検査として胸水が提出された。

### 症例 3

出題者:樋口 由美子 SUBARU 健康保険組合 太田記念病院 臨床検査部

回答者:谷 優佑 新潟大学医学部 臨床病理学分野

#### 【症例概要】

年齢:70 歳代

性別:女性

採取材料・胆汁(ENBD) 処理法等:LBC 法(BD サイトリッチ)

臨床情報:慢性肝障害で経過観察中に、CT で肝外側区域の胆管拡張、MRCP で左葉肝内胆管の狭窄を認めた。

既往歴:糖尿病、高血圧、高脂血症

#### 症例 4

出題者:菅野 恵士 埼玉医科大学国際医療センター 病理診断部

回答者:三澤 健 昭和伊南総合病院 臨床検査科

##### 【症例概要】

年齢:20 歳代

性別:女性

採取材料・部位・器具・処理法等:右鼠径部腫瘍 生検時圧挫標本

臨床情報:右鼠径部外陰部周囲皮下に、1cm 大の腫瘤。緩徐な経過での増大あり。画像上小さく特徴的所見はなく切除生検施行。リンパ細網性病変の可能性があり、女性の外陰部周囲として cellular angiofibroma が考えられる。

#### 症例 5

出題者:大塚 光一 東京医科大学茨城医療センター 病理診断部

回答者:中村 香織 自治医科大学附属病院 病理診断部

##### 【症例概要】

年齢:70 歳代

性別:女性

採取材料・部位・器具・処理法等:腫瘍捺印

臨床情報:軟部腫瘍にて、右腎を含む後腹膜腫瘤の摘出術を施行

## 実行委員名簿

会長	庵原 明倫
副会長	鈴木 誠
	田森 徹
実行委員長	江河 勇樹
プログラム委員長	目黒 史織
総務委員長	大石 琢磨
事務局長	山崎 葉子
顧問	伊藤 以知郎
	久力 権
	小宮山 明

### 実行委員

永田 美智	大塚 証一
岩崎 朋弘	滝浪 雅之
加藤 好洋	仲田 佐和子
玉木 温子	津久井 宏恵
原田 勉	田口 佳恵
高橋 珠里	渡邊 広明
黒田 優太	嶋崎 健介
佐藤 龍哉	堂本 浩二
斎藤 彩香	内野 有子
山田 清隆	富松 功光
市川 義一	武隈 宗孝
須田 由里香	平澤 侑也
杉澤 きよ美	別所 加央里
石堂 統	望月 裕一
川口 直美	本田 勝丈
村上 明紀	藁科 俊介
村木 真里	柳下 眞帆
大西 雄一	河田 卓也

## 開催にご協力いただいた企業・団体の皆様

### 【ランチョンセミナー共催】

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

### 【スライドセミナーヴァーチャルスライド協力】

浜松ホトニクス株式会社

### 【機器展示企業】

アジレント・テクノロジー株式会社

白井松器械株式会社

武藤化学株式会社

### 【ウェブ広告掲載企業】

アッヴィ合同会社

アストラゼネカ株式会社

サクラファインテックジャパン株式会社

静岡市立静岡病院

日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

ホロジックジャパン株式会社

松浪硝子工業株式会社

ライフテクノロジーズジャパン株式会社

(五十音順 敬称略)

**RINVOQ**  
upadacitinib

ヤヌスキナーゼ (JAK) 阻害剤

**リンヴォック錠**

ウパダシニブ水和物錠

薬価標準収載

45 mg  
30 mg  
15 mg  
7.5 mg

RINVOQ

薬価標準収載

注) 注意・取扱い等の処方薬により使用すること

**HUMIRA**  
adalimumab

生物由来製品 創薬 処方薬医薬品<sup>※</sup>

ヒト型抗ヒトTNF $\alpha$ モノクローナル抗体製剤

**ヒュミラ**

皮下注 40mg シリンジ 0.4ml  
皮下注 80mg シリンジ 0.8ml  
皮下注 40mg ペン 0.4ml  
皮下注 80mg ペン 0.8ml

<アダリムマブ(遺伝子組換え)製剤>

HUMIRA

注) 注意・取扱い等の処方薬により使用すること

全登録商標

**Skyrizi**

ヒト化抗ヒトIL-23p19モノクローナル抗体製剤

**スキリージ**

点滴静注 600mg 皮下注 180mg オートドーズ  
皮下注 360mg オートドーズ

全登録商標

生物由来製品 創薬 処方薬医薬品(注意・取扱い等の処方薬により使用すること)

※ 効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等については電子化された添付文書(電子添文)をご参照ください。

製造販売元  
**アッヴィ合同会社** (文献請求先及び問い合わせ先)  
 くすり相談室  
 東京都港区芝浦3-1-21 フリーダイヤル 0120-587-874

2024年12月作成  
 JP-HUMG-240089-1.0

abbvie

Smart in Small

# ESPO II

- 印字速度 約 20 枚/分
- ガラス供給  
マガジン、フロントローディング
- デュアル・タッチパネル
- コードスキャナ内蔵
- インターフェース  
有線 LAN、無線 LAN、USB 2.0

MATSUNAMI GLASS IND., LTD.  
<http://matsunami-glass.co.jp>

子宮頸がん検診の新しい選択肢

# 液状化検体からの HPV+細胞診

遺伝子  
検査

細胞診

HPV検査  
アプティマ® HPV



液状化検体細胞診  
ThinPrep®

ThinPrep®  
婦人科用プレザークサイト液

製品名 Rovers®サーベックスブラシ  
製造販売届出番号 13B1X10179001005  
製品名 Rovers®サーベックスブラシ(青)  
製造販売届出番号 13B1X10179001010

ホロジックジャパン株式会社  
東京都文京区後楽1-4-25日教館ビル TEL:03-5804-2340(代) FAX:03-5804-2321  
<https://hologic.co.jp/>

Hologic, ThinPrep, アプティマおよび関連ロゴは、米国その他の国におけるHologic, Inc.および/またはその子会社の登録商標です。  
RoversはRovers Medical Devices B.V.の登録商標です。

**HOLOGIC®**  
The Science of Sure

病理検査業務に必要不可欠となりつつある「スライドプリンター」と「カセットプリンター」  
武藤化学では最先端の機能を備えたプリンター製品をご用意しております

## コンパクトスライドプリンター Regulus レグルス

使い易いシンプル設計 コンパクトサイズ スピーディーな印刷

R2021-0610  
A101 対応  
染色法  
顕微鏡  
Fの番号  
武藤化学株式会社

新機能

フロントローディング印刷  
塗抹済み標本の印刷が可能。



ディスクタイプのガラスをご用意。  
詰め替えの手間が省け交換が容易です。

## レーザーカセットプリンター Sirius II シリウス2

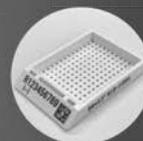
レーザーカセットプリンター  
国内販売実績No.1。を誇る「シリウス」が  
「シリウス2」として  
さらに進化を遂げました。 株式会社調べ

インク等の消耗品は必要なし!

レーザー印字で文字が  
消える心配もなく  
鮮明な印字を実現!  
さらに3面印字が可能!



※印刷は予告なく変更となる  
場合がございます。



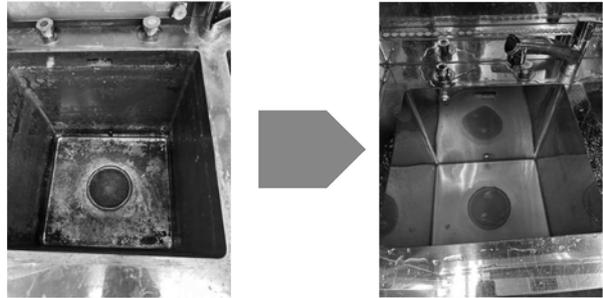
武藤化学株式会社

# 清掃

プロのお掃除一旦リセット

# 除菌

検査室、解剖室の汚れ  
気になっていませんか？



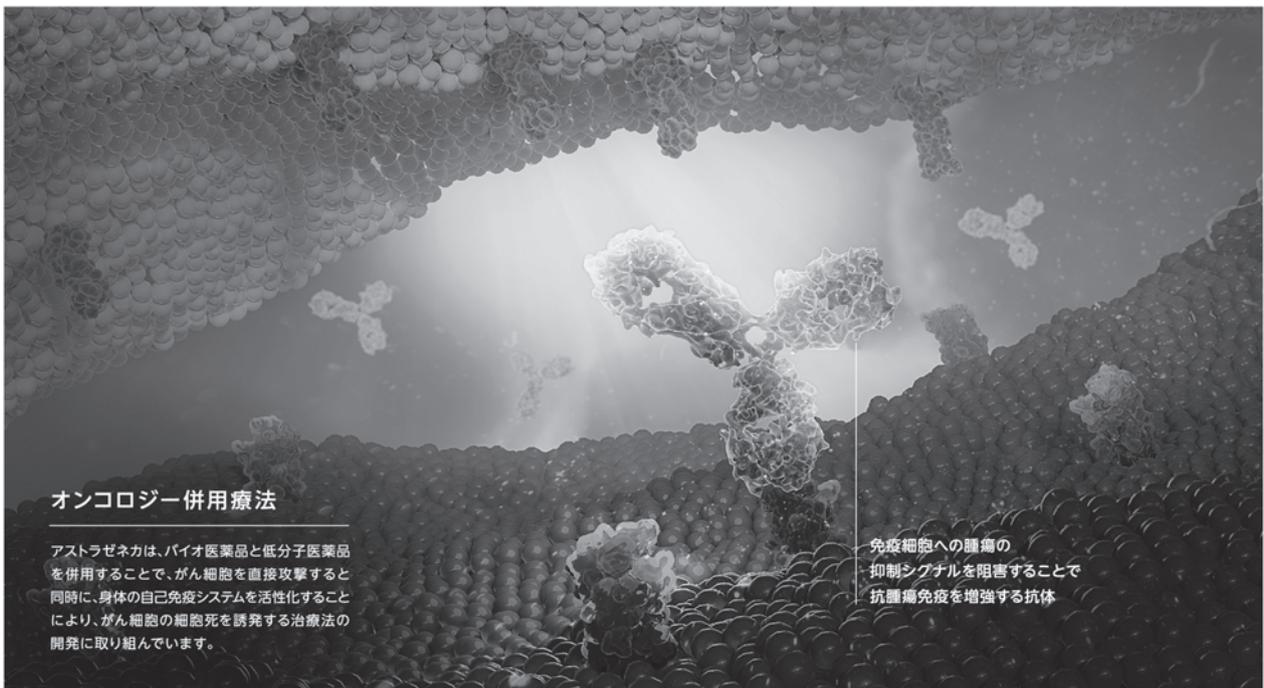
※冷蔵庫、局所排気付流し台、解剖室一式などの点検も承っております。



〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央 1 丁目 19-16 [www.shiraimatsu.co.jp](http://www.shiraimatsu.co.jp)  
支店・営業所・オフィス所在地  
大阪 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央 1-19-16 Tel 06-6942-4181(代) Fax 06-6942-4566  
東京 〒123-0873 東京都足立区扇 2-14-32 Tel 03-5647-1570(代) Fax 03-5647-1572  
九州 〒811-2115 福岡県糟屋郡須恵町佐谷 1447-1 Tel 092-687-8710(代) Fax 092-687-8711



What science can do



## オンコロジー併用療法

アストラゼネカは、バイオ医薬品と低分子医薬品を併用することで、がん細胞を直接攻撃すると同時に、身体の自己免疫システムを活性化することにより、がん細胞の細胞死を誘発する治療法の開発に取り組んでいます。

免疫細胞への腫瘍の抑制シグナルを阻害することで抗腫瘍免疫を増強する抗体

アストラゼネカ株式会社

〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪タワーB  
[www.astrazeneca.co.jp/](http://www.astrazeneca.co.jp/)



## ダコ Omnis 次世代の IHC & ISH 染色装置

ダコ Omnis<sup>1</sup> は、Dako の伝統である IHC のノウハウを詰め込んだ最新の全自動 IHC & ISH 染色装置です。近年、病理検査室では染色枚数が増え続け、検査の種類も複雑化する一方、人員は限られています。高い処理能力と柔軟性で技師さんの作業時間を削減し、より少ない労力で効率の最大化を支援いたします。ダコ Omnis 用でも コンパニオン診断薬 PD-L1 IHC 22C3 pharmDx「ダコ」<sup>1</sup> をお使いいただけます。

※使用目的：がん組織、細胞中の PD-L1 発現率の測定  
(非小細胞肺癌患者におけるペムブロリズマブ(遺伝子組換え)の適切な投与を行うための補助に用いる)

アジレント- Dako  
病理診断関連情報

カタログのダウンロード、製品説明動画や過去のセミナー動画の視聴ができます。



<https://aglt.co/PT-Soln-25>

アジレント・テクノロジー株式会社

〈芝浦オフィス〉  
〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目16番36号住友芝浦ビル  
TEL 03-5232-9970  
P250538  
©Agilent Technologies, Inc. 2024  
<https://www.agilent.com>

※ダコ Omnis：自動染色装置[特定保守管理医療機器]  
医療機器届出番号 13B3X10204000004  
†体外診断用医薬品 22800EZX00078000



VENTANA<sup>®</sup>



## ベンチマーク ULTRA PLUS

免疫染色 & in situ Hybridization - 全自動システム -

ベンチマークシリーズの新フラッグシップ  
これまでと共有の染色性で効率性を向上



### Efficiency

- 直観的な新ソフトウェア、タッチモニターによる簡単操作
- 可視的な機器ステータス管理
- 廃液分離により染色終了後の負担を軽減
- ベンチマーク Connect を利用した病理支援システムとの連携による染色オーダーの一元管理
- リモートサービスによる効率的なサポートを実現
- 引き出し棚で作業スペースを確保



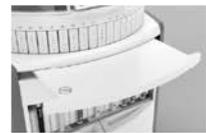
### Quality

- ベンチマークシリーズ共通の染色性
- スライド個別ID運用によるトレーサビリティ
- これまでのベンチマークシリーズで証明された染色テクノロジー



### Flexibility

- スライド一枚毎の染色管理
- 染色中のスライド、試薬、バッファー追加が可能
- IHC/ISHの同時染色



[diagnostics.roche.com](https://diagnostics.roche.com)

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社  
<https://www.roche-diagnostics.jp>  
☎0120-600-152

医療機器届出番号：13B1X00201000088